

領域別ゼミ資料の作り方の見本 (1)

—タイトルで本報告の内容がおおよそ察しがつくように—

1 研究進捗報告

1.1 前回までの報告 (Hors-d'oeuvre)

この節では、前回のゼミで議論したことを要約してまとめる。研究の計画性と連続性を確認し、自覚するためには必要。また、客観的に研究の進捗状況が把握できる。

1.1.1 それまでの課題と検討事項

前々回のゼミの時点で課題となった問題を列挙し、それらについての簡単な説明をする。次にそこで述べた各課題に対して、どのような検討を行なったかを図表等も使用し具体的にかつ簡潔に記述する。箇条書で整理できることは箇条書で書いてもよい。

1.1.2 計画と得られた成果

前回のゼミで検討された内容について、今回のゼミまでにどのような計画のもとでの作業を実施する予定であったかを簡潔に記述し、得られた知見を簡潔にまとめる。

1.2 今回の課題 (Main Dish)

前回のゼミから今回のゼミの当日までに検討する予定だった課題を列挙し、それぞれについて詳細に説明する。

1.2.1 課題内容と作業

各課題の説明と行なった作業内容を各項目ごとに具体的に説明する。初めてこの研究について報告を受けた人でも理解できるように丁寧に説明する。

1.2.2 得られた結果・知見

各作業内容に対して得られた結果とその考察を図表等も加えてまとめ、関連研究で得られた知見と照らし合わせて今後の研究方針に対する指針となるアプローチを検討する。

1.2.3 検討すべき問題

次回までに検討すべき問題をどのような課題として定義するかを研究テーマ全体の中における位置付けと共に検討する。また関連すると考えられる分野や先行研究についてのリファアーの必要性などについても検討する。

1.2.4 計画

次回までの研究活動計画を具体的に挙げ、目標とする成果を具体的に説明する。少なくとも曜日毎の研究計画を記述できるレベルでの詳細さが望ましい。図表化した説明も加えると望ましい。

2 研究活動全般についての報告

(Side Dish)

自分の研究活動全般に関して取り組んでいることや、研究動向などについての情報を共有するための報告。各自の Web ページに随時掲載する情報に直結するので、常にアンテナを張って自主的な自己研鑽に励むことを期待する。

2.1 新しく読んだ論文等とその要旨

常に新しい論文に対して敏感に情報収集し、関連する研究論文は必ず入手して目を通しておく。また、各研究分野で知っておかなくてはならない理論や技報などがあるので、そういった代表的な論文も必ず読んでおき、それらの要旨を簡単に紹介する。全体ゼミで利用する資料のインデックスになる。

2.2 研究動向やニュース

学会誌、学会 Web や関連 Web、集会など通して得た最新の研究動向やニュースを経時的にまとめていくことで、現在の研究トレンドに敏感になる。

2.3 実験実施のための準備

実験を行なうための準備についての報告。被験者の手配や場所の手配等、あらかじめおこなっておくべき事柄を周知させる。

2.4 発表・聴講・投稿について

行事カレンダーにしたがって自分の研究を発表したり、情報収集をするための聴講予定などについてリストアップし、自分のためのカレンダーを作りながら年間計画を立てていく。

2.5 テクニカルな事柄

計算機の管理や機材の運用などについての報告。またプログラミング技報などについてもまとめておき、知識共有を試みる。

2.6 計算機・機材等について

研究活動上必要な計算機や機材、ソフトウェアなどについての報告。

3 その他 (Dessert)

ゼミの場で報告したい内容や、研究室訪問の依頼等、研究に関する諸報告。